

氏名(本籍) 阿部サナエ  
学位の種類 医学博士  
学位記番号 医第816号  
学位授与年月日 昭和48年7月11日  
学位授与の要件 学位規則第5条第2項該当  
最終学歴 昭和29年3月15日  
東京女子医科大学卒業  
学位論文題目 悪性腫瘍の抗核抗体に関する研究

(主査)

論文審査委員 教授 山形 敏一 教授 山根 績

教授 齋藤 達雄

## 論 文 内 容 要 旨

抗核抗体は細胞核，或いは其の構成分と反応する一群の抗体で，自己免疫疾患，すなわち自己免疫的機序に基づく疾患を証明する血清学的な異常所見として知られていたものであるが，最近抗核抗体が胃癌患者にも発見されたと報告されている。私は胃癌を含む諸種悪性腫瘍患者 118 例と健常対照者 154 例の抗核抗体を蛍光抗体間接法を用いて検索して次の結果を得た。

1. 健常対照者にも抗核抗体は出現し，其の出現率は年齢と共に増加し，かつ70才代で急増する。
2. 悪性腫瘍患者における抗核抗体は年齢の進むにつれて陽性率が増加し，60才代で最高に達するが，71才以上では急激に低下する。
3. 悪性腫瘍患者と健常対照者の抗核抗体の陽性率は，悪性腫瘍 45.0%，健常対照 22.0% で，両者の差は推計学的に 0.1% の危険率で有意である。
4. 出現した抗核抗体の陽性度は，悪性腫瘍患者と健常対照者では，いずれの陽性度においても悪性腫瘍患者に高く，其の差は 1% の危険率で有意であった。
5. 消化器癌と他の悪性腫瘍の抗核抗体の出現頻度は，消化器癌に高く，各陽性度についても陽性率は消化器癌に高い。この陽性率の差は推計学的に 1% の危険率で有意であった。
6. 悪性腫瘍患者，健常対照者共に其の抗核抗体の陽性率は男女間に有意の差は認められなかった。

## 審 査 結 果 の 要 旨

著者は胃癌を含む諸種悪性腫瘍患者118例と健常対照者154例の抗核抗体を蛍光体間接法を用いて検索して次の結果を得ている。

1. 健常対照者にも抗核抗体は出現し、其の出現率は年齢と共に増加し、70才代で急増する。
2. 悪性腫瘍患者における抗核抗体は年齢の進むにつれて陽性率が増加し、60才代で最高に達するが、71才以上では急激に低下する。
3. 悪性腫瘍患者と健常対照者の抗核抗体の陽性率は、悪性腫瘍45.0%、健常対照22.0%である。
4. 出現した抗核抗体の陽性度は、悪性腫瘍患者と健常対照者では、いずれの陽性度においても悪性腫瘍患者に高い。
5. 消化器癌と他の悪性腫瘍の抗核抗体の出現頻度は、消化器癌に高く、各陽性度についても陽性率は消化器癌に高い。
6. 悪性腫瘍患者、健常対照者共に其の抗核抗体の陽性率は男女間に有意の差は認められない。  
したがって、本論文は学位を授与するに値するものと認める。